

三木ロータリー週報

会長・稲見 秀穂 幹事・横尾加名子 S.A.A. 石井 盛久 クラブ会報委員会一発行

例会日・毎週金曜日12:30~13:30 例会場・三木商工会館4階大会議室 TEL(0794)82-3190

事務局・兵庫県三木市本町2丁目1番18号 三木商工会館内 TEL(0794)82-8880
FAX(0794)82-0909
URL:www.miki-rc.jp E-mail:info@miki-rc.jp



よいことのために手を取りあおう

三木ロータリークラブ2025-2026年度テーマ さりげなく

2026年 2月 6日

NO. 27 (NO.3292)

今回のプログラム 2月 6日 クラブフォーラム 国際奉仕委員会 津村敏弘 委員長
ゲスト講師 河越 恭子 様 (三木市国際交流協会事務局長)
エバ ルイス 様 (ペルー)
「三木に暮らす外国ルーツの人々の声に耳を傾けて」

次回のプログラム 2月13日 会員卓話 宮脇 靖治 会員
「三木金物の歴史と私の会社 パート3」

本日のソング **君が代・奉仕の理想・ハッピーバースデー**

次回2月13日のお弁当は荒川さんです S.A.A.

ご結婚記念日祝 片山真人君・小山幸夫君 (3日)

お誕生日祝 繁田正文君 (1日) 片山真人君 (3日) 橘田 剛君 (4日) 前田静也君 (14日)
三宅哲正君 (21日) 五本上照正君 (23日)

ホームページ会員専用
ID: mikirc
PW: miki1230

出席記録	会員数	出席者	当日出席率	メークアップ他	出席率
本日	49名中				
1月30日	49名中	32名	32/41 78.04%	1名	33/41 80.48%
1月23日	49名中	29名	29/41 70.73%	2名	31/41 75.60%

◇1月23日のメークアップ 出席者 小藤貴雅君 (ワールド大阪Eクラブ) 井本 太君 (理事会)

◇1月30日のメークアップ 出席者 田中聖之君 (理事会)

ご入会記念日お祝い 本岡秀雄君 (33年) 岡田紹宏君・松岡丈二君 (9年) 竹内良一君 (8年) 田中聖之君 (3年)

前回例会2026年1月30日の記録

【会長の時間】

会長になって半年が過ぎ、だんだんと何を話そうかなという時期になってきました。先週は岡島委員長に定款と細則について非常に分かりやすくご説明いただきました。定款と細則が矛盾する場合は定款を優先するというので、RIでもそのようになっております。文言については、今年と来年で変わると皆様も混乱されますので、次年度の坂井会長とも相談し、運用の拡大や慣習法的な対応で進めているところです。

さて、今日の日本経済新聞1面に、食品消費税ゼロについての記事がありました。選挙期間中ですので政策的なことは控えますが、経済専門家へのアンケートでは、社会保障が不安定になるとして88%が反対という結果が出ています。私は食品の消費税がゼロになれば物価高対策になるのかなと思っていましたが、専門家はインフレ加速を懸念しているようです。昨今の今頃はこんな議論はなかったのに、本当に社会状況の動きが速いなど感じております。選挙の時だけでなく、普段から経済情勢や社会情勢をしっかりと見ていきたいと思っております。



【幹事報告】

- ・「抜萃のつじり」のご案内 東京RCの熊平様より届いております。小島よしおさんから室井滋さんまで、様々な方の文章が掲載されていますので、ぜひご覧ください。
- ・IM出欠の変更は2月11日まで受け付けています。懇親会に出席せず先に帰られる方も、フードロス削減のためお知らせください。
- ・3月7日(土)・8日(日) 地区大会への多数の参加をお願いします。
- ・三木市国際交流協会「日本語 de 発表」のご案内 2月1日(日) 午後開催されます。三木市で暮らす海外出身の方々が日本語で思いを発表する会です。お子様やお孫さんとご一緒にぜひどうぞ。



【委員会報告】

出席 本日の出席は会員50名中32名が出席し、出席率は78.04%でした。
メークアップはEクラブ利用が最も簡便な方法ですので、ぜひご検討ください。

ニコニコ箱 (*^-^)

合計 ¥1,247,000円

- 岡田 保君 やっと放映されました。見られた方は、眠かったと思います。申し訳ありませんでした。
- 岡田 紹宏君 その① 本日の卓話を担当します。よろしくお願ひします。
その② 今月、新社屋が竣工しました。(50数年ぶりの建替えです)2月より新社屋での業務開始となります。今までお世話になった皆様に心より御礼申し上げます。メンバーの皆様、お時間ございましたら是非お立ち寄りください。



会員卓話 岡田 紹宏 会員 「廃校を地域資産へ 民間主導による利活用の可能性」 ゲスト講師 市橋 卓也 様・西蔭 利徳 様 株式会社ハヤブサ OPEN SPACE 事業部



三木市吉川町にある私たち株式会社ハヤブサは、今年で創業67年を迎えます。主力の釣具事業では、サビキ仕掛けで世界トップシェアを誇っております。そんな弊社が昨年、廃校利活用事業として「OPEN SPACE」をオープンいたしました。
全国では毎年300件前後の学校が廃校になっており、そのうち約26%は活用されていないという現状があります。自治体だけが主体的に動くのではなく、民間主導で地域と連携しながら、よりフレキシブルな活用をしていくことが今後の課題であると考えております。



OPEN SPACEの場所は旧中吉川小学校です。弊社の本社と同じ区内にあり、実は弊社社長の歯肉の母校でもあります。自分の母校が廃校になり寂しい、なんとかもう一度賑わう場所にできないだろうか。それがこのプロジェクトの始まりでした。

2022年に三木市のプロポーザル公募でハヤブサが優先交渉権を獲得し、地域の皆様への説明と承認を経て、2023年に10年間の賃貸借契約を締結。2025年4月にオープンいたしました。体育館は釣り堀に改修し、5つの水槽の総重量は約52トン。全天候型で季節や天候に左右されず釣りを楽しんでもいただけます。運動場はバーベキュー場とドッグランに、プールの附属棟は飲食店舗「プールサイドキッチン」に生まれ変わりました。

では、なぜ民間企業がこういった事業を主導するのか。行政だけでは難しい柔軟な発想とスピード感があること、そして事業性を伴うことで継続的な運営が可能になること。ここが地域に任せる利活用とは異なる点です。継続するためには一定以上の事業性が不可欠です。



使われなくなった小学校という地域の象徴を、再び人が集まる場所にする。人が集まることで地域活性化につながり、雇用も生まれます。また、廃校利活用という社会課題解決に取り組む企業として、釣具業界以外からも評価をいただけるようになりました。時間はかかるかもしれませんが、この活動の全てがハヤブサブランドの認知度拡大につながると考えております。

ただ、事業性と公共性の両立は非常に難しい。この事業を進めていく上で一番難しいと申し上げても過言ではありません。どちらかに偏れば一方は手薄になります。1軸ではなく複数軸でバランスを保つことが事業継続の鍵だと考えております。

つい先日、バーベキューに来てくださった地域の方が「頑張ってるから、地域の人たちがもっと利用しないと…と思って」とおっしゃってくださいました。この事業をやっている本当に良かったと思う瞬間です。地域を抜きにしては地域に貢献できる事業はできません。

OPEN SPACEという名前には、開かれた場所に価値観や文化を超えて人が集まる場所にしたいという思いが込められています。行政支援と民間事業者と地域連携の三位一体で、廃校を負の遺産ではなく地域資産として再定義する。10年先も継続できるモデルケースにしたいと考えております。